

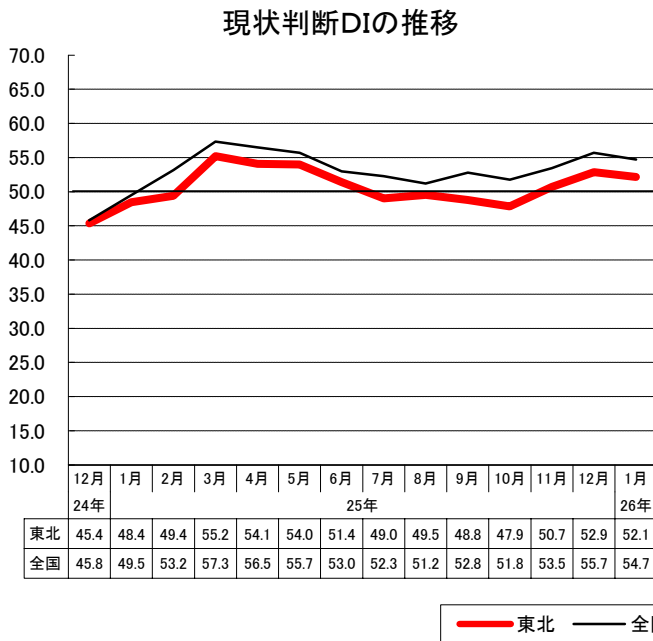
報道機関各位

公益財団法人東北活性化研究センター  
 「内閣府 景気ウォッチャー調査 平成26年1月東北分  
 (新潟を含む東北7県)」について

公益財団法人東北活性化研究センター(会長:高橋宏明・東北電力(株)取締役会長)は、このほど、「内閣府 景気ウォッチャー調査 平成26年1月東北分(新潟を含む東北7県)」について、とりまとめましたのでお知らせいたします。

**1. 現状判断(3か月前との比較、方向性)**

現状判断DI「52.1」(▲0.8)は、3か月ぶりに前月を下回ったものの、景気判断の基準となる50を3か月連続で上回った。



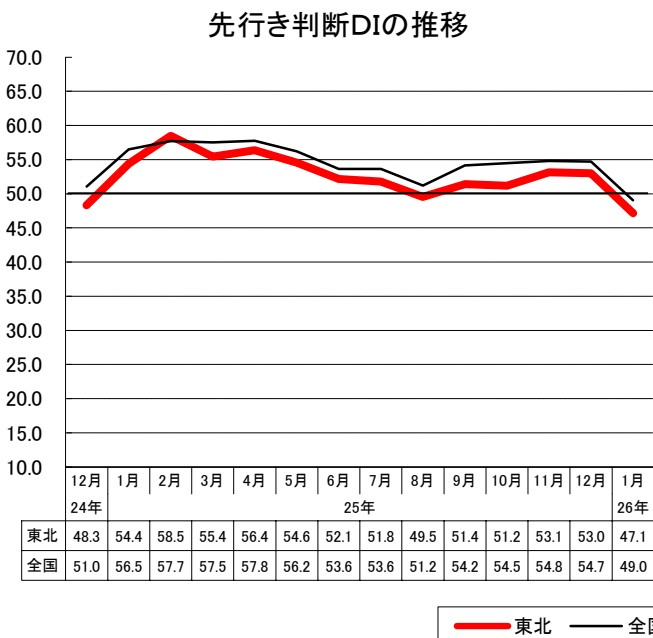
・家計動向…百貨店等、駆け込み需要が本格化している業種がある。一方で、コンビニや高級レストラン等は来客数の減少の影響が大きくなっている。DIは「48.3」(▲0.8)と3か月ぶりに前月を下回り、基準値50を7か月連続で下回った。

・企業動向…建設業を筆頭に、多くの業種で受注・販売環境が好調である。DIは「59.5」(▲0.9)と4か月ぶりに前月を下回ったものの、基準値50を13か月連続で上回った。

・雇用動向…DIは「63.6」(±0.0)と前月から横ばいで、基準値50を13か月連続で上回った。

**2. 先行き判断(2~3か月先の見通し、方向性)**

先行き判断DI「47.1」(▲5.9)は、2か月連続で前月を下回り、景気判断の基準となる50を5か月ぶりに下回った。



・家計動向…消費税増税前の駆け込み需要の反動への懸念が強く出ている。DIは「45.0」(▲7.1)と5か月ぶりに前月を下回り、基準値50を5か月ぶりに下回った。

・企業動向…消費税増税前の駆け込み需要は落ち着きをみせている業種もあるが、多くの業種では、まだ期待されており、景気判断はプラスとなっている。DIは「51.2」(▲3.1)と2か月連続で前月を下回ったものの、14か月連続で基準値50以上となった。

・雇用動向…DIは「53.4」(▲3.4)と4か月ぶりに前月を下回ったものの、基準値50を14か月連続で上回った。

## <参 考>

### ■D Iの推移※

#### (1) 現状判断(方向性) D I

	24年		25年										26年	
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
東北現状	45.4	48.4	49.4	55.2	54.1	54.0	51.4	49.0	49.5	48.8	47.9	50.7	52.9	52.1
家計動向関連	45.7	45.3	46.4	53.6	52.6	52.1	51.0	47.6	48.4	47.6	45.4	48.4	49.1	48.3
企業動向関連	43.1	53.6	55.5	57.3	56.0	59.5	51.8	53.0	51.2	50.6	50.6	53.6	60.4	59.5
雇用関連(参考)	47.7	59.1	58.0	61.4	60.2	55.7	53.4	51.1	53.4	53.4	59.1	60.2	63.6	63.6

#### (2) 先行き判断D I

	24年		25年										26年	
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
東北先行き	48.3	54.4	58.5	55.4	56.4	54.6	52.1	51.8	49.5	51.4	51.2	53.1	53.0	47.1
家計動向関連	47.4	52.9	58.4	53.6	54.7	53.5	50.3	49.7	47.2	50.0	51.0	51.6	52.1	45.0
企業動向関連	50.0	59.5	61.6	61.0	60.7	57.1	57.7	58.5	54.2	54.8	50.0	57.7	54.3	51.2
雇用関連(参考)	51.1	54.5	53.4	56.8	59.1	56.8	53.4	53.4	55.7	54.5	54.5	54.5	56.8	53.4

※D I (Diffusion Index) について…50 を基準とし、50 を超えると景気が良い方向にあることを示す。

### ■調査の概要

調査期間 平成26年1月25日～31日

回答者数 210/210名、回答率100.0%(全国1,875/2,050名、91.5%)

以上

<お問い合わせ先>

公益財団法人 東北活性化研究センター (担当: 佐藤(健))

〒980-0021 仙台市青葉区中央2-9-10

TEL : 022-222-3394 FAX : 022-222-3395

## <別 紙>

### ■特徴的と思われる判断理由（ウォッチャーのコメントから抜粋）

#### （1）現状判断理由

##### ○「良くなっている」

（乗用車販売店）…消費税率引上げ前の駆け込み需要が本格化しており、今月に入ってからの新車受注は前年比倍増ペースとなっている。

（建設業）…消費税増税前の駆け込み受注が続いている。内容としては、小口工事が多い。

##### ○「やや良くなっている」

（百貨店）…初売りは開店前の客列や販売量からも2けた増となり、以降、年末商戦のマイナス基調から上向きへ転じた。内容は前年の高額商品の好調さを象徴するような、輸入ブランド、時計が大きくけん引している。消費税増税前の駆け込み需要も日を追うごとに増加してきている。

（住関連専門店）…初売りや4月からの消費税増税の影響もあり、耐久消費財も多少動き始めている。また、季節商材も若干動き始めてきており、3か月前からすれば販売量は伸びている。

（旅行代理店）…団体旅行は変わらないが、個人旅行の売上や予約状況を見ているとやや良くなっている。

（農林水産業）…例年に比べ積雪が少なく、雪害もほとんどない。

（食料品製造業）…販売額は目標には届かないものの、前期をずっと上回っていて、人員不足の状況が続いている。

（広告業協会）…流通関係、自動車販売は初売りがかなり好調だったところから、今後の広告出稿も期待が持てる。特に電波は時間帯によってはスポットが抑えにくい状態が続いている。ほかの広告媒体も引き合いが増加している。

（職業安定所）…総合建設業では公共工事が増加し、消費税増税前の駆け込み需要が見受けられる。また、家具装備品製造業でも東京、大阪方面の受注の増加や、増税前の駆け込みで忙しいようである。

（民間職業紹介機関）…求人数が増加してきている。最近では製造業も従来から比較し若干ではあるが増加してきている。

##### ○「変わらない」

（医薬品販売店）…まとめ買いをする客が以前より目立っており、客単価は上昇しているが、一方で来客数は減少している。結果として月間の売上は横ばいとなっている。就業による収入のある客は、かなり財布のひもが緩くなっている様子だが、大半の客層である年金生活者の層では、会話のなかでも生活が大変だという訴えが多い。

（スーパー）…既存店の数値を見ると、売上101%、来客数101.7%と前年を上回っているが、客単価、買上点数、1品単価はいずれも99%台と前年を下回っており、前月と比較しても何も変わっていない。来客数が前年を上回っているのは例年になく降雪量が少ないことが要因とみられる。

（衣料品専門店）…冬物バーゲンになっても必要最低限の購買が中心で、単価が伸びない。

（家電量販店）…消費税増税前の駆け込み需要がそろそろ出ている。初売りから単価の良い商品を購入する傾向があり、1品単価が上がってきている。増税前に大物商品、エアコン、冷蔵庫、テレビそれもちよつと単価の高いものが売れている。

（ガソリンスタンド）…暖房用燃料の高値が続いており、消費量の節約が継続してきている。灯油を中心に気温の割に消費が伸びない。灯油価格が100円を超えてくると家計に与える影響は拡大し節約傾向が強まる。また、暖房用のハウスの燃料が上がっているため、農作物の生産コストが上がり生産者は苦しくなっている。

（ショッピングセンター）…前年に比べて積雪量が少ないため、来客数は多い。特に冬物セール品に対する反応は良く、購買の様子がかがえる。一方で、春物商材の動向はまだ鈍い。灯油、ガソリンの価格高止まりもあり、客の財布のひもは明らかに固くなっている。

(通信会社) …小売業の客は、消費税増税前の買い溜め需要と増税後の買い控えで、結果マイナスと評価しており、コスト削減に向けて準備を始めている。

(観光名所) …前月までの予約数は団体客もフリー客も伸びていた。ただ、ここにきて団体、フリー共に前年同様か数人の増加となっている。景気は変わっていない。

(美容室) …来客数の前年比の状況は3か月前からほとんど変わっていない。もちろん前年よりも減っているという状況である。

(住宅販売会社) …受注量は落ち着いてしまったが、消費税増税前の駆け込み物件の工事完成が集中している。

(一般機械器具製造業) …自動車部品については、国内需要は予想以上にある。輸出についても円安の影響で好調を維持している。

(電気機械器具製造業) …携帯端末の生産数が頭打ちになっている。

(通信業) …顧客全体としては安定しているように見えるが、一部では業績不振を理由に解約が発生している状況である。

(コピーサービス業) …民間企業からの受注量は大口商談が少なく、小口の積み重ねで売上がつくられている。景気が特に良い方向に向かっているという実感はない。

(飲食料品卸売業) …前年秋ごろから出荷が好調を維持しており、今月もまざまざの成績である。特にスーパーなど大手流通向けの出荷では、年末年始も安定した出荷が続いた。

(人材派遣会社) …人材派遣業界においては、企業からの求人は増加傾向だが、求職者の減少が顕著で需給バランスが悪く、横ばいが続いている。

## ○「やや悪くなっている」

(コンビニ) …通常、年末年始は客単価が上がる傾向があるが、総じて例年よりも低く、同時に来客数減も重なっている。大型店への流出が年末年始の特徴であった。

(高級レストラン) …年末年始と年度末の狭間で、消費に回らず出費を抑えている傾向がみられる。ホテル等のワンランク高価な所は一時的に利用控えがある。

(都市型ホテル) …宿泊は前年を上回っているが、宴会、婚礼、レストランが厳しくなっている。

## ○「悪くなっている」

(靴専門店) …降雪量が平年より少なく、長靴、ブーツ、スノトレといった冬物商材が売れない。割引率を高くしているが、それでも売れない。

## (2) 先行き判断理由

### ○「やや良くなる」

(百貨店) …今月に入り、ブライダル関連やラグジュアリー関連、オケーションという部分で消費税増税前の購買動向が見られるようになってきている。3月までは、新生活に関するオケーションや、もっと身近な身の回り品で駆け込み需要は見込めるのは明らかである。ただ、一転、4月に入ってから反動は否めない。3月までは上向きで、4～6月くらいまでは反動でマイナスになっていく。

(衣料品専門店) …消費税増税による駆け込み需要が増える。さらに、2、3月は入学、入社によるスーツ需要が増える。

(広告代理店) …消費税率変更に伴う表記変更で、印刷物やホームページの修正の駆け込み的な発注があると予想される。

(人材派遣会社) …中途採用で採用しきれなかった塾、外食産業、住宅関連、小売業が、中途採用ではなく新卒採用、大卒採用に切替えて、積極的に説明会の開催や募集活動をしている。

(職業安定所) …消費税増税前になり求人をけん引していた建設業の伸びが鈍くなったが、製造業の求人、特に食品製造が大幅に増加している。しかし、季節的な求人が多く、やや良いを選んではいないがそこまではいえないかもしれない。

### ○「変わらない」

(酒類専門店) …積雪状況や天候に人の動きが大きく左右されるので不透明ではあるが、年度替えの時期でも動くことが予想され、これ以上良くはならずとも、横ばいの状態はキープできると考えている。

(住宅販売会社) …当地域の公共事業及び大型民間物件工事が年度をまたいで多くあるため職人の手がない。受注予定はあるが、工期の確定が難しく契約ができない。自社物件は工期が半年以上遅延している。

(司法書士) …中古不動産などは年度内の駆け込み需要が見込めるものの、新築住宅の需要については落ち着きを見せている。

(飲食料品卸売業) …消費税増税を控え、若干の仮需要が見込まれるが、近年、在庫を多く持たない得意先小売店が多く、大きく出荷が延びることは見込めない。

(金属工業協同組合) …駆け込み受注の終了等により受注案件は期待できない。半導体関連や医療器関連等の引き合いは強いが、依然として単価及び納期は厳しく、その対応に苦慮している。

(職業安定所) …求人数は前年比増加の傾向だが、非正規パートが多くを占める。原材料及び原油価格の高騰や消費税増税の影響なども注視していく必要がある。

### ○「やや悪くなる」

(酒類専門店) …日本酒は仕入価格が値上がりしている。それに加えて消費税率も上がるので、売上は落ちると予想される。

(コンビニ) …これまで堅調に推移してきた客単価や買上点数がダウンしているために、プラス材料は見当たらず、不安が先行する。特にたばこのダウンが大きく、消費税増税ともなれば、より一層ダウンの可能性が大きいのではないかと不安である。

(乗用車販売店) …初売りで消費税増税前の駆け込み需要で、販売量の増加を見込んでいたが、新車の納期の問題などで予想を下回る結果となった。今後2、3か月先はクリーンエネルギー補助金の終了や消費税増税により、更に厳しくなると予想される。

(ガソリンスタンド) …燃料関連は価格が上がりすぎて、消費者の節約志向が定着し、販売量が減少している。4月以降は消費税増税でより一層減少するとみられる。

(ショッピングセンター) …高単価商品の購入が伸張しており、消費税増税前の駆け込み需要がピークを迎えつつある。4月以降は売上が減少すると考えざるを得ない。

(一般レストラン) …消費税増税の問題と材料価格の値上がりがあり、3か月後はやや景気が悪くなるのではないかと。エビに限っていえば価格が約2～2.5倍になっている。

(観光型旅館) …高級で高額な宿が好調とは聞いているが、ミドルクラスの中小旅館を利用する地元の顧客層は宿泊旅行を控えているようである。ここにきてますます動きが鈍くなってきている。

(競艇場) …4月の消費税増税の影響で弊社のような娯楽産業の利用は減ることが予想される。

(農林水産業) …新年度からの消費税増税により、農業資材や農機の支払金額が増える。

(通信業) …顧客の業績不振などの理由による解約案件が予想されるため、対応策に迫られている状況である。

### ○「悪くなる」

(スーパー) …食料品でも保存が可能な米、調味料、嗜好品、酒などは2月後半から3月は消費税増税前の駆け込み需要で売上は大きく伸長する。しかし、その反動で4～6月にかけては大きく落ち込むことが予想される。